

# 平成から令和 民主主義を問う

メディアを通して見る日本は、いつから単色になったのかと問う人があった。平成から令和へ変わる前後、束ねられる人ばかりではないことを示す集会在、大阪市だけでもいくつかあった。一部を紹介する。

## おめでと〜一色 異議唱え集会

集会「天皇代替わりに異議あり」は4月27日であった。講演した評論家の太田昌国さんは、新元号が発表された後の社会のありようについて「1人の人間に時間を支配されることなのに、喜んで管理下に置かれた」と指摘。さらに



集会「天皇代替わりに異議あり」の会場は参加者でいっぱいになった。4月27日、大阪市中央区北浜東のエル・おおさか

5月1日の新聞各紙は、1面で新天皇即位を大きく報じた

昭和天皇の戦争責任を振り返りつつ、では、戦争被害者や被災者の心を癒やす「よい天皇」ならば認めるのかと問う。「それは、私たちの主権を『殿上人』に譲りわたすことではないか」

天皇制と民主主義は両立するのかがどうかは、どの集会でも問われた。4月12日であった集いで講師を務めた上杉聡・日本の戦争責任資料センター事務局長は「『特別な人』を持たずに話し合いで解決策を求める力がないならば、民主主義が骨の髄まで入っていないといつこと」と語った。

4月29日の「昭和の日」に反対する集会は同日にあった。十数台の街宣車が会場の周りを回りながら「排除せよ」「殲滅せよ」「粉砕せよ」と大音量で叫んでいた。集会では、日本近現代の国家戦

## 小さな意見消す ■ 単色の報道を批判

略史にくわしい山田朗・明治大学教授が、昭和天皇が戦争の戦略や作戦にいかに関わっていたのかや、戦前と戦後の天皇制はどう変わったのかを解説した。「昭和末期の自粛は誰かが『こうしなさい』と言ったわけでもなく、天皇制による心の支配が続いていることを可視化した。今、天皇制に対する自由な報道や議論はどれだけあるのか」

4月30日は天皇の退位に、5月1日には即位に反対する集会があった。

「朝から晩までテレビは万歳ブーイング」「今日の新聞を見て目を疑った」とメディア批判を参加者は口々に語った。高校教師は「小さな意見を取りあげて議論を重ねるのが民主主義。小さな意見を消すのが今の報道だ」と怒った。

東京から来た牧師は、戦時下のキリスト教について、弾圧された面もあるけれど自ら進んで天皇に忠誠を誓って戦争に協力したと省みた。「上から抑えつけられたのではなく、みんなが下から翼賛した」

被差別部落の出身者ですと自己紹介した男性は、部落差別と天皇制との関係を「『聖なる天皇』があるから『けがれた部落』がつくられた」と話した。(下地毅)